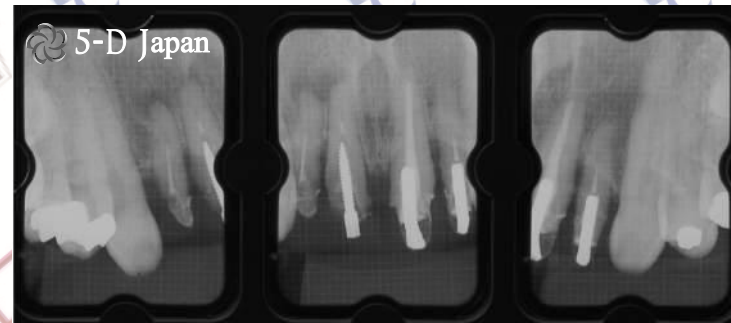


カテゴリー:インプラント

Key word:FTwing, GBR,APF

FT-wingを用いたGBR

5-D Japan : 殿塚 量平
とのつか歯科



初診日: 平成19年4月6日 性別:女 年齢 58

主訴: 前歯を治したい

治療終了日:平成 年 月

診断: 歯周炎、右上1、2歯根破折

治療方針: 右上12は抜歯後インプラント治療、左上12は、再生療法後に補綴治療

患者はLow Lip line でした。また、本症例は全顎的に治療を行っておりますが、今回は前歯のみ報告します。

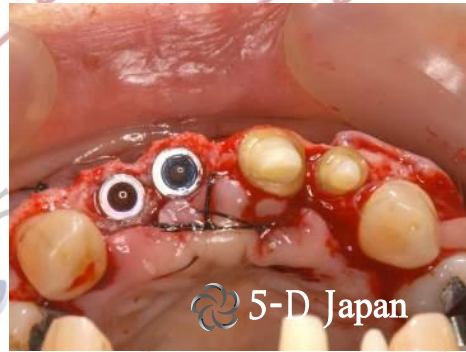
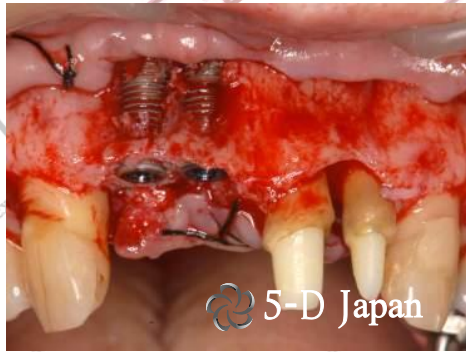
治療概要



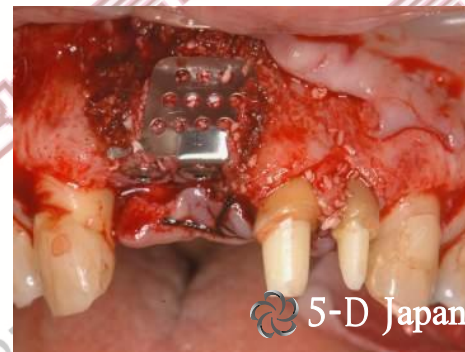
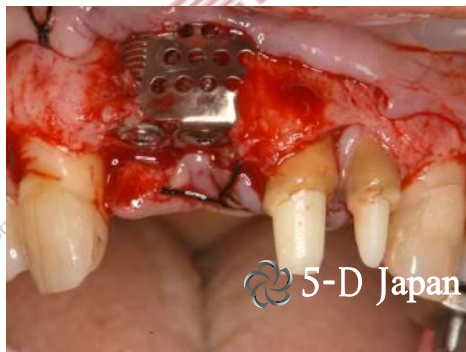
抜歯後2ヶ月でインプラント埋入、及び左上再生療法を行った。



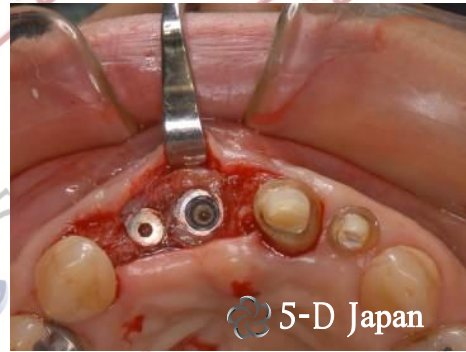
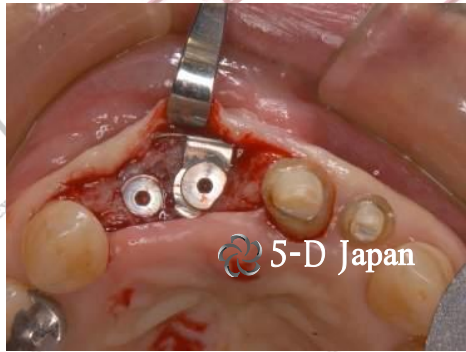
全層弁でフラップを開き



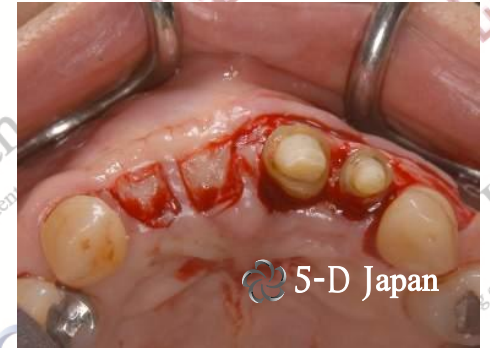
やや近接してしまったがインプラントを埋入すると、唇側において大きく骨が裂開した。



FTwing を使い GBR を行い、左上骨欠損部には、骨移植と GEM21s(PDGF)を併用し再生療法を行った。



1年経過後、Ftwing 除去を行い、皮質骨様の骨の再生を確認した。また、GBR によって歯槽頂方向に移動した MGJ の位置の修正と、軟組織の厚みの確保の為上皮付き結合組織移植を行った。





FTwing 除去より1ヶ月経過し、軟組織の治癒後にインプラント 2 次手術及び左上の切除療法を行った。



2 次手術後6ヶ月の Provisional restoration の状態。

本症例は、患者の審美的要求度も低く、Low lip-line であったが、審美的要求度の高い症例においては、FT-wing の設置は骨レベルではなく歯間乳頭の再建を考慮した高さに、すなわち FT-abutment の使用等も考慮する必要があるとともに、2 次手術時の左側の軟組織の取り扱いについてもより慎重に考慮する必要がある。